

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470800281		
法人名	医療法人社団 愛敬会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 グループホーム 若の山荘		
所在地	三重県伊勢市楠部町若ノ山2605-13		
自己評価作成日	平成22年12月20日	評価結果市町提出日	平成23年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470800281&amp;SCD=320□□">http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470800281&amp;SCD=320□□</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成23年1月11日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは手作りをモットーとしています。食べる楽しさと作る楽しさを感じて頂きたいと思い、春と秋の彼岸にはおはぎを作ったり、お雑煮、七草粥、節分の恵方巻き寿司、お雛様に見立てた寿司やゆで卵のうさぎ、月見団子等、四季折々の行事食を利用者さまと一緒に作っています。その他、七夕のかざりづけやゆず湯、菖蒲湯等で季節を感じてもらい、湯たんぽ、生姜湿布等で安眠に心がけています。又、年の暮れには毎年門松作りやおせち料理、餅つき等を行っています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地から離れた高台にあって、老人保健施設に隣接したグループホームである。理念の方策「三つの暮らし」を実現する為、家族等にも積極的に働きかけ、経験に基づいた確かな知識と、センター方式の活用で入居者の以前の暮らしや持てる力を探り、「いきいき人生のびのび人生」の実践の為なら、何でもやると頑張る職員たちが、明るく活き活きと働く事業所である。差し入れや買出しの食材で職員と入居者による食事が手作りされており、献立は日常の家庭の食卓と同じで飽きない、ほっとするものである。片付けも職員とのチームワーク良く、利用者の持てる力が発揮され、いきいきと取り組んでおられる様子が見られた。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	設立当初からの家訓「いきいき人生のびのび人生」をモットーにしてその人らしい生活を維持すると共に、本人の意思を尊重して家族を含めて地域との交流を図っている。	理念はミーティングや会議で確認している。利用者の今までの人生を大切に、御手前の時間を設ける(元茶道師範)等持てる力の発揮の場つくりや、利用者に不安定な症状が見られる時の対応の振り返りを行い、理念に沿うよう援助が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する老健の行事や地域のイベントに参加したり、月1回は外食や買い物ツアー等を企画し地域との交流を図っている。	神社の伝統行事「萬歳楽」に毎年参加したり、保育園との交流を予定している。介護福祉士専門学校の実習を受け入れたり、隣接の同法人施設の行事にも参加している。民生委員の方から毎年菊鉢の提供があり、利用者は楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に集ってもらい定期的に運営会議をもち、荘の活動を知ってもらう事で理解を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所活動状況や利用者の状況、外部評価結果と改善の取り組み等を報告して活気ある会議となっている。年6回の会議を持つことは非常に難しく本年は5回にとどまった。	家族・地域・行政の参加は積極的で、「若の山荘だより」を中心に現況の報告と意見交換が行われている。これから、消防や警察の参加をお願いしていく。22年は出席者の協力で5回開催されている。	運営推進会議が2ヶ月に1回以上開催され、各業種からの活発な意見交換が行われる事で、「若の山荘」が、地域に密着したグループホームとして、さらなる向上をしていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所とも常に連携をとり、法に関する分からない部分は行政に聞き行政からも協力の要請事があれば前向きに協力している。	運営推進会議に市は積極的に参加され、その都度情報提供されている。管理者が中心であるが相談に気軽にのってもらったり、事業所も行政からの依頼に応じている。最近ではスプリンクラーの設置の相談をした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について社内研修を持ち全職員がそれを理解しており拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関に鍵はかけておらず、利用者は自由に出入りができる為花の水やりや日向ぼっこをしている。	全職員が「拘束しないケア」を理解し実践している。無断で外出してしまう利用者がいても、付き添っていき、落ち着いた時に連絡を取りあい、車の迎いで帰ったり、また不安行動を察知し、家族に手紙を書いておいて貰う等の対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症を抱える入居者を守る為に成年後見人制度を利用し本人の財産と生命を守る取り組みを1名行っている。又、社内研修にて職員も理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、質問を受けながら時間をかけて利用料金や重度化や看取りについての対応等説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して意見を出しやすい環境に努めている。苦情や要望があれば速やかに対応している。本年より介護相談員の派遣を導入し利用者の相談にのってもらっている。	面会時の近況報告や毎月の報告で家族から意見の抽出を図っている。運営推進会議への参加もあり意見が出されている。利用者とは意見を言いやすいよう普段からコミュニケーションをとっており、意見・要望がでると、できる事は即反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやカンファレンスの際、職員の意見を聞くようにしている。日頃からコミュニケーションを図るよう心がけている。職員は言いにくい事でも積極的に発言し、解決に心がけている。	日常の業務の中やカンファレンス・ミーティングで多くの意見が出される。業務について改善の提案があると直ぐに対応して、変更した内容を引き継ぎノートに記入し、全職員が把握できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は一人ひとりの職員の能力に応じて役割を持たせることでやりがいをもてるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	パートも含めた社外研修を積極的に取り入れられている。会議にて研修報告を行い、共有及び実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協議会定例会や同業者の開催する研修会への参加や訪問等の交流を通じてサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期面談で生活状態を把握するよう努めている。入荘の際に本人の意向、家人の意向を確かめてケアプランに取り入れて支援をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や経緯についてゆっくり聞くようにしている。インテーク面談やセンター方式による情報収集で不安を取り除き、役割を持ち暮らす中で信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人やご家族の思い、状況等を確認し改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、支援される側という意識を持たずお互いが協働しながら和やかに生活できるよう声かけをしている。お茶やお花の作法を教えてくれたり職員が疲れていると思えば手を揉んでくれる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子を月1回の手紙に書いたり、必要な事や変化のあった時は電話をする。カルテを見てもらい、本人を支えていくための協力関係が築ける事が多くなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の同僚の訪問や行事に参加してもらうよう声かけして、関係が継続するよう支援している。なじみの人、大切な人との繋がりを保ち、イベントへの参加や又その人たちが面会にきたりしがきをくれたりしている。	センター方式シートを家族等にも記入してもらい把握することで、関係の継続支援に繋げている。事業所の行事には友人や家族を招待したり、手紙のやりとりを支援している。行きつけの美容院の利用や墓参り等、家族と出かけており、馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶会や食事の時間は職員も一緒に多くの会話を持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退荘された方も行事に招待したり家族からの相談にのっている。病院に入院中は職員が入れ替わりよく見舞っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声を掛け把握に努めている。言葉や表情などからそれとなく確認している。センター方式の活用と面会時やインテーク面談での情報収集で把握に努めている。	本人の言葉を良く聞くと共に、日常の表情や動きで思いや意向を察知している。家族にもセンター方式シートへの記録をお願いしたり職員が追加したりして、利用者の把握に努め、必要な支援が出来るよう活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身の語りや家族、知人等の訪問時など少しずつ把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活、心理面の視点やできないことよりできることに注目しその人全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしてる。アセスメントを含め職員全体で意見交換やカンファレンス、ミーティングを行っている。	担当職員、キーパーソンの家族を中心に利用者の思いや課題を担当者会議にて話し合い、それを基に全職員参加のカンファレンスを行い、モニタリングと計画が立てられる。3ヶ月毎と必要時の見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意し、身体的状況および日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。いつでも全ての職員が確認できるようにしており勤務時間開始前、申し送りしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に応じて必要な支援は柔軟に対応し個々の満足度を高めるよう努力している。個別リハビリ、足つぼマッサージなど。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしが続けられるよう警察や民生委員との連携を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。また、受診や通院はご本人や、御家族の希望に応じて対応している。基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な時には職員が代行している。	入居生活が長くなると法人の医師をかかりつけ医に希望する方が殆どであり、月2回の往診や随時の診察で健康管理がなされ、利用者・家族に安心感がもたれている。専門医の診察には家族が付き添い、報告がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行なえるようにしている。介護職員と看護師とは気軽に相談できる関係ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、交代で職員が見舞うようにしている。また、家族とも情報交換しながら回復状況等速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意志確認書を作成し、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。本人の気持ちを大切にしつつ、家族と話し合い、利用者が安心して終末期を過ごしていけるよう取り組んでいる。	入居時や変化のある時、意志確認書で本人・家族の終末期に関する意志を確認し、職員も情報を共有している。看取りの希望には、応えていく方針である。医療のバックアップや、ベテランの介護職・常勤2名の看護職の体制で本人や家族の気持ちに最大限に応えたいと取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	行政機関や消防署の協力を得て、救急手当や蘇生術の研修を実施し、職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消化器の使い方などの訓練を定期的に行っている。	昨年スプリンクラーの設置を行った。普段から火災を起さないよう防災機器の点検を行っている。全職員が避難手順書を持ち常に確認しており、年2回の防災訓練の他に机上訓練も行っている。しかし夜間発火・地震を想定した臨場の危機感もてていない。	机上訓練や日中の訓練だけでは想定できない事があるので、臨場の訓練は職員には必須である。大事な利用者の行動も把握できるよう夜間一人の勤務時間に、災害が起きたと想定した訓練を行い、更なる安全に繋げることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのその日の気分や体調を配慮してさりげない誘導や声かけを心がけている。訴えに対しては否定せず、本人が傷つかないような言葉かけに気をつけている。トイレは各人の部屋にあり、トイレ時はカーテンやドアを閉めている。	個性やその日その時のリズムを大切にして、声掛けや誘導が行われている。相手の反応によっては職員が交代して対応する等、フォローしあって利用者の尊重とプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせ声かけをし、複数の選択肢の中から選んでもらったり、本人の希望を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながらその日その時の本人の気持ちを尊重してできるだけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは本人主体で、好みの服を選んでいる。自分では決められない人は、本人と相談してセッティングしている。馴染みの理美容へ同行している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から盛り付け、後片づけまで職員と一緒に役割分担して行っている。	食材の買出しは月3回以上利用者と共に出かけ、その日は皆の好物のお刺身が食卓に上る。誕生日には各々の希望の献立が用意されている。準備、盛り付け、片づけ等其々の得意分野を活かした支援が毎日行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食べる量を把握し、おにぎりにして食べやすいようにしている。また、肉と魚が重ならないようバランスのよい食事作りを心がけている。排尿チェックをして、水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけ、誘導している。困難な方は職員が義歯をはずしてケアしている。夕食後は、必ずポリドントにつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導する事で排泄している。	自宅でオムツだった方が昼間はパットのみ、夜間はリハビリパンツで過ごされるようになり、介護5の方も昼間はパットで過ごせる等、トイレでの自立排泄を支援している。利用者の日常から、排泄前の状況を察知して、積極的に排泄ケアに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材やヨーグルト、海藻類を取り入れ散歩、家事活動等、身を動かす機会を適度に設けて、自然排便出来るよう取り組んでいる。 腹部マッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回朝昼夜と工夫している。嫌がる方には無理強いはしていないが、言葉がけにより気持ちよく入ってもらっている。月に1度は隣接する老健の大浴場を利用している。	利用者の「昼には入浴した事がない」という意見から、月2・3回は夕食後～就寝前の時間に、入浴時間を設けている。また隣接の老人保健施設のジャグジー風呂に出かけたりと、入浴を楽しむ支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	湯たんぽ、ホットパック、生姜湿布をして安眠出来るようにしている。寝付かれない利用者には添い寝をしたり人形や飼っている猫を抱いて寝てもらう。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や処方箋のコピーをケース毎に整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時には本人に手渡しきちんと服用できているかの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が先生になり、毎月生け花やお茶会を楽しむ機会を持っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員や家族が同行して外食や理美容、買い物に行っている。 また一泊旅行や馴染みの場所にも行っている。	天気の良い日は毎日全員で、外に出る機会を作っている。季節毎の全員での外出や、小銭を持っての買い物ツアー、伊勢神宮の参拝等、利用者の希望で出かける事も多く、楽しんでいる。正月やお盆に外泊できる働きかけや遠方の家族との一泊旅行等、個々の支援もしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て少額のお金を持っている方もいる。家族よりお金を預かりグループホームが管理している方でも外出時のお金などは、自分で払って頂けるようお金を手渡す。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などに電話しやすい雰囲気作りや職員からの声かけを行う。毎年年賀状を出すための支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音、御飯の炊ける匂い心地よい音楽、ゆず湯や菖蒲湯、五感や季節感を意識的に採り入れる工夫をしている。	居間には皆で作る大きな季節の貼り絵の作品や、行事の写真が飾られている。生け花や、猫の憩いの場所もあり、吹き抜けの天井からの暖かい光が差し込み、テレビの前にはゆったりとしたソファが置かれ、落ち着いた空間作りがなされている。玄関には1月ならではの立派な門松が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにはベンチがあり、花に囲まれた日の当たる暖かい場所で日向ぼっこをしている利用者もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた日用品を部屋に持ち込み利用者の居心地のよさに配慮している。	馴染みの筆筒、調度品等が居室に置かれ、其々の部屋の花器に合った花も活かされている。ある部屋には事業所で飼っている猫の寝床が2つも置かれ、利用者の一員となり可愛がられている。各部屋にはトイレ、洗面台が設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シンクや手すりの高さは利用者に合わせて作られている。床は転倒しても衝撃が少ないクッションフロアになっている。		